

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年11月号



【伊都振興局】 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】
～小学校で柿の吊るし柿体験を実施～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 「県産みかん」の提供に係るみかん出前授業を実施	
2. 秋冬ダイコンの優良品種選抜試験を開始	
II 那賀振興局	2-3
1. タバコカスミカメを活用したアザミウマ類対策実証研修会 ～那賀地方有機農業推進協議会～	
2. 「匠の技 伝道師」による有機野菜栽培研修会	
III 伊都振興局	4-5
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（カキ剪定講習会）の開催～	
2. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～小学校で柿の吊るし柿体験を実施～	
IV 有田振興局	6
1. 保田小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！	
2. 糸我小学校児童表敬訪問（農業体験報告）	
V 日高振興局	7-10
1. 日高地方4Hクラブ連絡協議会現地研修会を開催	
2. 日高地方農業士会が研修会を開催	
3. 日高地方農村青年交流会を開催	
4. 「匠の技 伝道師」による「うめの樹を観る研修会」を開催	
5. 御坊市農業士会研修会を実施	
VI 西牟婁振興局	11-14
1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】 ～ウメ「南高」摘心樹のせん定講習会を実施～	
2. ウスイエンドウ栽培での省力化機械導入検討会を開催	
3. 川添緑茶研究会が自然薯栽培先進地調査を実施	
4. 青年農業者がウメの播種を学ぶため指導農業士を訪問	
5. 女性農業者セミナーを開催	

Ⅶ 東牟婁振興局	15-16
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほを設置～	
2. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴ定植ほ現地研修（第3回セミナー）を実施～	
3. 「匠の技 伝道師」による（品目：たかな）の研修会・座談会	
Ⅷ 農林大学校	17
1. 1年生インターンシップの実施	
Ⅸ 就農支援センター	18-19
1. UIターン就農相談フェアを開催（御坊市-就農支援センター）	
2. 特別研修「ジャム加工について」を開催	

I 海草振興局

1. 「県産みかん」の提供に係るみかん出前授業を実施

県が地産地消の取り組みとして、県内小中学校等に主要農水産物を提供している事業の一環で、和歌山市立楠見小学校において4年生74名に対し、みかんの贈呈式が行われ、農業水産振興課がみかん出前授業を実施した。

児童から「みかんのビタミンCは美肌効果以外にどんな効果がありますか。」「みかんの外側の皮は食べられますか。」など数多く質問があり、関心の高さがうかがえた。

その後、給食でみかんを食べ、「とても美味しい。みかんを提供してくれてありがとう。」とお礼の言葉も聞かれた。

今後も学校で出前授業等を行うことで地域の農産物をより知ってもらい、地産地消につながる取組を続けていく。



出前授業の様子

2. 秋冬ダイコンの優良品種選抜試験を開始

農業水産振興課では、JAわかやまと連携し、和歌山市布引地区においてダイコンの品質維持、向上のため、毎年、播種時期別に4～5系統の栽培品種試験を行っている。

和歌山市では砂地でのダイコン生産が多く、とりわけ布引地区で作られるものは品質が良く、古くからブランドとして流通しており、令和3年5月末には地理的表示（GI）保護制度に、「わかやま布引だいこん」として登録された。

今年度は、11月14日に第1回目の調査を行い、2月下旬頃まで、播種時期に合わせて6回ほど調査を行う。栽培期間中の雨も少なかったことから、全体的に根が深くまっすぐ伸び、2L～3Lのサイズが多かった。収穫した5品種を比較し、大きさ、外観、病害の有無などの項目を調査している。

今後も慣行品種に加え、継続検討品種、新規品種の調査を行い、慣行品種の欠点を補いながら、品質で上回る新たな品種の探索を続けていく。



ダイコン収穫調査

Ⅱ 那賀振興局

1. タバコカスミカメを活用したアザミウマ類対策実証研修会

～那賀地方有機農業推進協議会～

那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和氏）会員の井上達也氏は昨年度から施設きゅうり栽培の難防除害虫であるアザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ媒介による黄化えそ病）対策として、土着天敵タバコカスミカメの捕集器並びに誘引装置を活用した実証試験に取り組んできた。

11月12日、本協議会では標記研修会を開催し、井上氏がこれまでの取組とその結果について、会員及び有機農業に興味のある地域農業者に発表を行った。

まず、井上氏から捕集器を含めた今回の試験の利点と問題点について説明があり、その後、タバコカスミカメやバンカー植物（天敵温存植物）の実物が紹介された。

続いて、誘引装置を設置しているハウス内にて、装置の設置方法や、設置による効果、未設置ハウスとの違いについて説明があった。

参加者は各道具の活用方法や効果に関心を持っており、「バンカー植物はどのくらい必要になるのか、またどこに植えるべきか」、「きゅうり以外に効果が出る野菜はどのようなものがあるのか」、「タバコカスミカメはどのくらいの数が適正であると感じたか」、「機材はどのくらい必要になるか」等多数の質問をしていた。

井上氏は今後もタバコカスミカメを活用したアザミウマ類対策を継続していく予定であり、農業水産振興課では、井上氏を含めた会員らによるグループの自主的な取組を今後も支援していく。



捕集器の紹介



バンカー植物の紹介



実証ほ場にて

2. 「匠の技 伝道師」による有機野菜栽培研修会

優れた技術を次世代に伝承するため、卓越した栽培技術を持つ農業者に対して「匠の技 伝道師」の称号を与える制度が令和3年度からスタートした。

紀の川市の山本博氏は、20年間有機JAS認証を継続しトマトをはじめとした有機野菜を生産している。米ぬかや油粕、自家製くん炭といった身近な資材を活用してできた熟成堆肥の投入や、マルハナバチを活用して植物調整剤を使用しないなど、農薬や化学肥料に頼ら

ない栽培技術を持つことで、6月9日に知事から他の6名とともに「匠の技 伝道師」として認定された。

11月30日、紀の川市内の山本氏の自宅作業場において、トマトをはじめとした有機野菜栽培についての研修会を開催し、新たに栽培を志向する農業者2名が参加した。

山本氏からは、パワーポイントを使ってこれまでの自身の歩みを振り返り、自身の経営概況や有機農業にかける熱い思いを語っていただいた。

その後、栽培圃場であるハウスを順に回り、特に自身が力を入れている土づくりの現場ではその重要性を熱心に説明していただいた。

参加者からは「苗の入手方法」や「どうして有機農業が可能となったのか」といった声が聞かれた。

研修会の開催により、匠の技術が継承され、有機栽培の輪が広がることを期待する。



研修会の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】

～農業技術講習会果樹コース（カキ剪定講習会）の開催～

11月25日、農業水産振興課では、基礎技術を習得したい農業者の技術・経営力向上のため、カキの栽培技術をテーマにした講習会を開催し、11名が受講した。

今回は、主に冬の作業として、カキの剪定技術、土壌改良、越冬害虫の防除について講義を行った。その他、来年も発生が心配な病害虫、クビアカツヤカミキリムシの啓発等について説明した。その後、九度山町のカキ園に移動し、当課の森口普及指導員から「刀根早生」の剪定についての実演しながら説明を行った。

受講者からは「カキの炭そ病の防除方法」の質問や「ウメの剪定技術についても学びたい」などの意見があった。

当課では、今後とも果樹コースや野菜コースに分けて、農業経営の基礎技術を学びたい生産者に対し、研修を通じて技術指導を行っていく。



剪定講義



剪定の実演

2. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】

～小学校で柿の吊るし柿体験を実施～

伊都地方農業振興協議会（市町、JA、農業共済、振興局で構成）は、地域農業への理解を深めるとともに、伊都地方特産の柿の美味しさを知ることにより地産地消の推進を図るため、平成13年度から小学生を対象に柿の体験学習を行っている。

11月は、柿のお話とあわせて、吊るし柿体験を管内11校の小学校において、326名の児童を対象に実施した。

柿の体験学習の取り組みは、本年度で20年目となり、令和3年度までに訪れた小学校は、のべ415校（対象児童数：21,522人）である。

柿のお話しでは、和歌山県が日本一の柿産地であることや、柿農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えて楽しみながら学んだ。吊るし柿体験では、渋柿の皮を剥き、日当たりが良く、風通しの良い場所に3週間ほど吊るしておくことで、渋かった柿が甘い干し柿になることを説明した。

今後も、小学生を対象に柿のPRと地産地消の推進を行っていく。



柿のお話（九度山小学校）



吊るし柿体験（九度山小学校）

IV 有田振興局

1. 保田小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！

11月1日、有田市立保田小学校（中西和美校長）3年生（52名）を対象に、有田市農業士会7名と農業水産振興課職員指導のもとみかんの収穫体験を行った。

有田市農業士会（会長：上野山良知氏）では、平成13年から摘果や収穫の指導を行っている。

当日は8班に分かれ、美味しいみかんの見分け方や「ほぞ」が高くなるように2度切りすることなどを指導した。収穫後は有田むきを体験した後、全員で試食をした。また、3年生が収穫したみかんは給食に提供された。

摘果、収穫体験と1年を通じて学習したことで、みかんづくりの苦労や収穫の喜びを子ども達に体験してもらうことが出来た。

今後も当課では農業士と連携して農業教育の支援を行っていく。



みかんの収穫体験

2. 糸我小学校児童表敬訪問（農業体験報告）

11月4日、有田市立糸我小学校（土岐哲也校長）5年生児童2名が有田振興局長を表敬訪問し、1年間の農業体験の報告と、収穫したお米の贈呈を行った。

当日は、児童に農作業を指導した田んぼの学校山崎佳彦校長や、育成会の山崎光二会長も参加し、局長を囲んで意見交換を行った。児童からは「お米作りは大変で、食のありがたみがわかった」、「達成感があった」などの意見が出ていた。来年は次の5年生にバトンタッチとなる。

今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



お米の贈呈



収穫したお米



意見交換会

V 日高振興局

1. 日高地方4Hクラブ連絡協議会現地研修会を開催

11月12日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：有本雄紀氏）は現地研修会を開催した。本研修会は、本年度からの新しい取り組みの一つで、4Hクラブ員を対象に農業の基礎および販売、流通、経営等に関する知識をより気軽に習得してもらおうと企画された。

本年度は、農産物直売所を運営する企業を見学し、仲間同士で活発な議論を行うことを通じて農産物の多様な販路について理解を深め、自身の農業経営に活かすことを目的とし、クラブ員6名が参加した。研修会は午前の部および午後の部に分けて開催された。午前の部では、株式会社農業総合研究所 美浜集荷場を訪問・見学し、出荷される農作物、出荷先、出荷方法、出荷にかかる手数料等について具体的に説明を受けた。参加者らは実際に自身が出荷することをイメージしながら、施設や出荷の様子を熱心に見学した。午後の部では日高振興局別館2階大会議室にて、同社CEO室長である赤井資浩氏による事業概要等の説明会が行われた。参加者らは同社設立の経緯や業界における位置づけ、今後の事業方針等の説明に耳を傾け、自身の経営感覚などと比較しながら熱心に議論を交わした。

参加者からは「単なる出荷方法や企業概要の説明に留まらず、自分のビジネスに対する考え方を見直すことにもつながり、有意義であった」との感想があった。

次年度以降も分野にとらわれず、幅広い知識の習得をねらった研修会の開催を支援していく。



集荷場における現地研修会



事業概要等説明会

2. 日高地方農業士会が研修会を開催

日高地方農業士会（会長：平林孝郎氏）は、11月に集合形式による研修会を2回開催した。これまでコロナ禍により活動が制限されてきたが、ようやく会活動ができる状況となり、参加者の表情は明るかった。

(1) 女性部会現地研修会

女性部会（部会長：菊地晴美氏）では、地域農業について学ぶとともに部会員間の交流を促進するため、例年現地研修会開催している。

今回は11月4日に開催地である日高川町の部会員が企画し、菊地部会長以下17名が参加した。

まず、野田養蜂園において、ミツバチの生態と養蜂について代表の野田覚氏から説明を受けた。花粉交配にミツバチを利用している生産者も多かったが、巣箱の中を見るのは初めてであり、全員が興味津々であった。



ミツバチの生態を学ぶ

次に紀の国わかやま文化祭2021関連行事を行っている道成寺を参拝。小野俊成院主から道成寺の歴史について説明を受けた後、秘仏・千手観音菩薩や書院を見学した。

最後に日高川役場において、部会員から近況報告や農作物の栽培管理等について意見交換を行った。

(2) 地域リーダー研修会

地域リーダーとしての資質向上と会員間の連携を深めるため、11月18日、紀の川市と海南市において開催し、17名が参加。例年であれば、30～40人規模での県外研修となるが、今回はコロナ対策として県内での研修とし、バス移動時の密を避けるため参加人数を限定し実施した。

まず、県農業試験場において、キュウリの褐斑病とエンドウのハナアザミウマの防除対策に関する試験結果について説明を受けた後、イチゴの環境制御施設の見学を行った。参加者からは、CO₂施用方法について設問が相次いだ。

次いで、(株)八旗農園を訪問。高平昌英代表取締役と県農業士会連絡協議会副会長でもある中浴泉専務から、法人化による農業経営と加工品の製造販売について説明を受けた。同じ農業士ということもあり、ざっくばらんに意見交換が行われた。



(株)八旗農園での研修

最後にJAながみねファーマーズマーケットとれたて広場を見学し、有意義な研修会となった。

3. 日高地方農村青年交流会を開催

11月22日、日高地方4Hクラブ連絡協議会(会長:有本雄紀氏)主催の日高地方農村青年交流会が開催され、日高地方の農業青年と異業種の女性ら合わせて12名が参加した。

今回は、異業種の青年に日高地方の農業や農産物について知ってもらい、愛着を持ってもらおうと、由良町のみかん園において収穫体験を行った。

体験では、温州みかんから中晩柑まで幅広く栽培し、ジュース等の加工品の販売まで手掛ける由良町の数見隆一郎氏に協力を依頼し、収穫期を迎えた早生の温州みかん品種「宮川早

生」の収穫を楽しんだ。体験は有本会長の挨拶で始まり、宮本一輝副会長の司会により進化した。体験の合間には、4Hクラブ員らが自身の農業経営や、日高地方の農業に関する紹介を行い、参加者らと交流した。また、園主である数見氏からは由良町の柑橘農業について説明が行われた。参加者らは数見農園のデザイン性に優れたパンフレットを参照しながら、同町で栽培されている柑橘品種に関する説明に耳を傾けていた。また、数見氏は5haの園地を有する町内でも有数の大規模農家でもあるため、4Hクラブ員らはその経営手法についても関心を持ち、熱心に質問していた。

参加者からは、「4Hクラブ員と交流しながら収穫体験ができ、有意義だった」、「気軽に楽しめてよかった」との声があり、異業種の青年同士の交流や、日高地方の農産物の魅力をPRする目的を達成することができた。終了後のアンケートでは、「農産物加工体験」に興味を示す参加者が多いことが伺われた。加工体験は天候に左右されず開催が可能であるメリットもあるため、次年度以降の開催案として検討していく。



日高地方の農業について説明を受ける参加者



収穫体験を楽しむ参加者

4. 「匠の技 伝道師」による「うめの樹を観る研修会」を開催

農業水産振興課は、「匠の技 伝道師」がもつ卓越した技術や知識を農業後継者に伝えるため、11月25日にみなべ町において標記研修会を開催した。本研修会は、去る8月31日に「匠の技 伝道師」の山本茂氏を講師に迎え開催した「うめ栽培に係る座談会」の参加者18名に呼びかけたもので、8名の参加があった。

当日は、山本氏のうめ栽培園地を歩きながら山本氏の経験談を聞き、樹形や園地づくりについて意見交換を行った。また、山本氏によるせん定の実演では、①基本となるせん定技術をしっかり身につけること、②目的（目指す収量性）をしっかりと持つこと、③園地や樹勢等の条



匠の話を熱心に聞く参加者

件を加味し応用を利かすことなどの話があり、参加者からは「お手本のような樹形である」、「海岸部のせん定に比べ、光を取り込むようにしている」などの声が聞かれた。

その後、8月の座談会で挿し木苗による栽培について質問があったことから、山本氏の紹介で近隣にある挿し木苗による成園を見学した。園主から挿し木苗の場合は、初期の樹勢管理に気をつけることなど経験談を聞くことができ、参加者も熱心に質問をしていた。

5. 御坊市農業士会研修会を実施

11月25日、御坊市農業士会（会長：宮井広行氏）は、令和5年10月から消費税の申告に導入されるインボイス制度（適格請求書等保存方式）について、御坊市役所5階大会議室で14名の会員参加の下、コロナの感染対策に注意を払いながら研修会を実施した。

研修会では、御坊税務署から講師を招き、制度の概要と農業関係の特例について説明を受けた。

インボイスとは、売手が買手に対し正確な適用税率や消費税額等を伝えるもので、具体的には「適格請求書等」を発行する制度である。特例として「卸売市場において行う生鮮食料品等の譲渡」、「生産者が農業協同組合等に委託して行う農林水産物の譲渡」については、適格請求書の発行義務が免除される。しかし、加工業者や小売業者（レストラン等）に直接販売している生産者は、特例要件に該当しないため、求められれば買手に対し適格請求書等を発行しなければならない。この「適格請求書等」を発行するには、税務署に申請し登録事業者となる必要がある。

研修会の参加者からは、生産物は農協や市場外にも販売もしているため、相手先からも情報収集し、必要があればインボイス制度が始まるまでに登録申請していきたいとの意見が出された。

また、農家も消費税の申告の際、この適格請求書等がなければ仕入れ税額控除を受けることが出来なくなることも認識した。



研修会

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】

～ウメ「南高」摘心樹のせん定講習会を実施～

ウメ「南高」の摘心栽培研修会を行った際に参加者から、「摘心樹のせん定方法が知りたい」との要望があったため、10月27日に田辺市秋津川の展示ほ（成木、摘心3年目）と、11月10日に田辺市新庄町のムカデ整枝と摘心処理の展示ほ（11年生樹、摘心6年目）においてせん定講習会を実施し、生産者、JA紀南営農指導員、農業水産振興課普及指導員の計36名が参加した。

前田普及指導員から主枝や亜主枝の骨格作りは基本的なせん定方法と同じであること、摘心を数年実施すると結果層が高くなっていくこと、結果枝が密集しすぎると下枝が陰になり枯れ枝が増えることをポイントとして挙げ、結果枝の切り返しや間引きせん定を織り交ぜることを実演しながら説明した。参加者は説明を聞いた後、実際にせん定を体験しながら理解を深めた。

また、秋津川の展示ほでは摘心を3年続けたところ、下層部に結果層が出来てきたことから、青梅の収穫作業の効率と安全性を高めるため、主枝の高さを約2.5mに切り下げる低樹高化を行い、生産者にその有効性を発信していく計画である。

当課では、ウメ「南高」の安定生産を検討するため、今後とも生産者や関係機関と連携しながら、栽培実証園等での研修会を開催していく。



ウメ「南高」摘心樹のせん定講習会（左：秋津川、右：新庄町）

2. ウスイエンドウ栽培での省力化機械導入検討会を開催

西牟婁地域のウスイエンドウは、ウメ等の複合経営品目の1つとして、生産者数42戸、栽培面積2.5haとなっているが、杭打ち作業に多大な労力がかかり、生産者から作業の省力化を求める声強い。

11月16日、白浜町のウスイエンドウ栽培圃場において、機械導入による杭打ち作業の省力化を検討するため、機械メーカー担当者による作業実演や作業体験会が行われ、生産者やJA紀南営農指導員、同JA購買担当者、農業水産振興課職員21名が参加した。

杭打ち作業は土壌条件にもよるが、機械の導入により 1 人でも可能であり、作業時間は大幅に短縮できると思われる。

参加者からは、「機械自体は重いが、杭をセットして打ち込む段階では、それほど重さを感じない」、「杭を打ち込む音が結構大きい」、「価格が高い」、「ウスイエンドウの杭以外に鹿よけネットや電気柵の設置など杭打ち作業をたくさん行う人には作業が楽になると思う」など多くの意見があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、野菜花き栽培での作業の省力化につながる機械の導入を推進していく。



実演会



作業体験

3. 川添緑茶研究会が自然薯栽培先進地調査を実施

川添緑茶研究会（会長：上村誠氏）では、茶経営における冬期の所得確保を目的に自然薯栽培の可能性を検討している。

11 月 25 日、田辺市龍神村における自然薯栽培の取り組みについて先進地調査を実施し、会員 2 名と農業水産振興課の村畑普及指導員が参加した。

園主の鈴木直孝氏から栽培、出荷調整、販売の方法について説明を受けた。圃場の排水対策が重要であり、高畝栽培にすることやイモを形よく栽培する資材として塩化ビニール製のパイプと波板を利用しており、パイプの方が太い自然薯ができるとのことであった。販売先は主に田辺市内の道の駅や直売所で、割竹に檜の葉を添えて包装して贈答用としても販売されていた。

参加者からは、「種芋の保存方法や切芋種の催芽方法はどのようにしているのか」等の質問があり、活発な情報交換が行われた。



贈答用荷姿



圃場での説明

当課では、令和4年3月に白浜町市鹿野で自然薯栽培実証圃の設置を計画しており、今後とも茶の栽培指導と併せて、同会の活動を支援していく。

4. 青年農業者がウメの播種を学ぶため指導農業士を訪問

ウメの経済樹齢は25年程度とされており、西牟婁地域では多くの園地で改植時期にきていることや、近年、ウメの価格が安定していることから、改植が積極的に行われており、苗木が不足している。そこで、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：廣畑佳和氏、クラブ員10名）は、必要数の苗木を確保し、ウメの計画的な改植や補植による安定生産を実現するため、苗木の自家生産に取り組んでいる。今年度は冬に播種をするために、自家育苗を行う指導農業士、蕨野準氏（田辺市）と松川哲朗氏（みなべ町）の2名を訪問し、それぞれのやり方を実地に学んだ。

種子の保存から発芽後の管理まで基本的な育苗の流れを教わったほか、播種作業ひとつにも良質な苗木を生産するベテラン農家の工夫が随所に見られ、クラブ員は見聞きした技術を熱心にメモに残していた。また、苗木生産圃場においては1年生苗木や2年生苗木を見学し、今後の作業のイメージを膨らませた。

当課では今後ともウメ産地の課題である苗木の生産を推進するため、接ぎ木や移植など重要な技術習得を目的とした研修会の開催や栽培指導により当クラブの活動を支援していく。



播種の実演



播種の説明を受けるクラブ員



苗木生産圃場の見学

5. 女性農業者セミナーを開催

11月25日、道の駅みなべ町うめ振興館で農業経営や地域づくり等に参画する女性を支援するため、女性農業者セミナーを開催し、関係者を含め31名が参加した。

講師はみなべ町指導農業士の二葉美智子氏で、「うめ産地の魅力を発信！」と題しての講話と梅染め体験を行った。

最初に、参加者は二葉氏から梅染め工程の説明を聞いた後、3班に分かれて各自絹のストールを水洗いして絞り、梅の木の皮を砕いて煮出した染液に約20分程度を浸けて染めた後、水洗いし絞って干す工程までを体験した。

その後、二葉氏による講話では、「自分で育てた梅は自分で販売したい」との思いから、梅干の商品「みっちゃんの梅」を県外へ出張販売したことや、全国の農村女性起業向け研修会に参加したことをエピソードを交えて話された。これらのことがきっかけとなり、「人と繋がりながら活動し、人の力を借りることで物事が前を向いて進んでいくのが早い。グループ活動を長続きさせるコツは、グループの人と本音で話すこと。自分の思いを持ち続けていたら、チャンスは巡ってくる。これからは農業の時代、自分の子どもにも継承していきたい」とも話された。

参加者からは、「発想と行動力に刺激を受けた」、「梅の魅力を全国に発信しているのがすごい」、「皆と梅染め体験ができて楽しかった」などの声があった。

当課では、今後も本セミナーの開催を通じて地域で活躍する女性農業者を支援していく。



染めたストールを干す



講話



染め具合を見る参加者

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】

～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほを設置～

11月26日、那智勝浦町苺生産組合(会長：栗野稔近氏)は、イチゴの天敵(カブリダニ)を利用したハダニ類の防除実証ほを設置した。

イチゴの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要となっている。

当日は、農業水産振興課浅井普及指導員から当面の管理方法、散布できる農薬の説明を行った後、園主の松出氏が天敵を放飼した。

今後、実証ほのハダニ類と天敵の生息数を調査することで天敵の効果を確認し、現地研修会などを通じて地域に普及を図っていく。



天敵放飼



ハダニ数の調査

2. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】

～イチゴ定植ほ現地研修(第3回セミナー)を実施～

11月30日、那智勝浦町苺生産組合(会長：栗野稔近氏)は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植ほ現地研修(第3回イチゴセミナー)を実施した。当日は、生産者15名、JAみくまのトレーニングファーム研修生1名の他、JAみくまの及び農業水産振興課併せて3名が出席し、各生産者のほ場を巡回した。

各ほ場では、生育や病害虫の発生状況などを確認した。今年は8月上中旬に曇雨天が続いたことや9月の気温が平年より低くなったことから、例年よりも開花が早い傾向で、収穫時期が早まった。

病害虫の発生状況については、炭そ病の発生が例年より多い傾向にあり、ほ場によってはハダニやうどんこ病が発生していたため、農薬の種類や散布時期について生産者間で情報交換が行われた。当課の浅井普及指導員から、昨年度のハダニ類天敵防除実証ほの試験

結果の報告と天敵導入時の栽培管理について、JAみくまの笹平主事から、ハダニに効果的な農薬や散布方法について説明した。

当課では、関係機関と連携しながら同苺生産組合の活動を支援していく。



栽培状況の説明



ハダニの農薬の説明

3. 「匠の技 伝道師」による（品目：たかな）の研修会・座談会

「匠の技 伝道師」とは、卓越した農業技術を有する農業者に対して与えられる称号で、県は今年度から次世代への匠の技術伝承活動を促進することを目的に「匠の技術伝承事業」を実施している。

那智勝浦町の塩崎一男氏は、たかなのかき葉長期収穫栽培で10aあたり8tの生産を実現した技術を持っており、6月9日に「匠の技 伝道師」に認定された。

11月30日に新宮市佐野において、塩崎氏による収穫・栽培管理の研修会・座談会を開催し、たかな生産者3名が参加した。

塩崎氏から、収穫方法や出荷基準の判定、冬から春にかけての栽培管理のポイントについての説明があった。

参加者は、たかな栽培技術の関心が高く、トンネルに利用する資材やさび病などの病害虫の防除方法、収穫・調整方法について活発に意見交換した。塩崎氏から「これからも技術を伝えていきたい」との抱負があった。

これからも当課では、たかな栽培の次世代への技術伝承を支援するとともに、たかな産地の拡大に向け普及活動を行う。



栽培管理の説明



収穫期のたかな

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生インターンシップの実施

農林大学校農学部では、11月5日から11月19日までの15日間、1年生16名が「インターンシップ」を実施した。この研修は、学生が自らの希望進路に合った農家や企業等での就業体験を通じて、職業観や社会人としての意識を醸成することを目的としている。

J Aファームわかやまで研修した学生2名は、J A担当者に教わりながらレタスの収穫を体験するなどした。

研修では、学校とは違う方法での作業に戸惑うこともあったが、それぞれの指導者の下で新たな経験を得ることができた。また、初めて接する幅広い年齢層の人々との間で円滑な人間関係を築くためには、質問や雑談などを通じたコミュニケーションの積み重ねが重要であることなどを学んだ。学生は農家や企業の経営を体験することで将来の進路について具体的なビジョンを得られた。

なお、同研修は1年次で15日間、2年次で15日間の合計30日間実施しており、今年度の2年生についても6月に実施した。



学生と受け入れ先

IX 就農支援センター

1. UIターン就農相談フェアを開催（御坊市-就農支援センター）

11月7日、就農支援センター研修館で、第2回UIターン就農相談フェアを実施した。相談フェアをより充実させるため、実際に実習ほ場の見学および農作業体験ができることから、平成31年度3月以来2年ぶりに就農支援センターでの開催となった。第1回（7月11日）と同様、新型コロナウイルス感染防止対策のため予約制とし、様々な対策をとって実施した。

今回、県（農業、林業）、JAグループ和歌山、新規就農者受入協議会、各市町、県農業会議、日本政策金融公庫、わかやま定住サポートセンターなど11団体が相談ブースを設けた。参加者数は、男性11名、女性5名の計12組16名であった（内訳は県内13名、県外3名〔奈良県2名、愛知県1名〕、平均年齢40歳）。これから農業を始めるあるいは、農業法人等に就職しようと考えている相談者からは、次のような相談が寄せられた。「農林大学校と就農支援センターでの研修内容」、「次世代人材投資事業」、「施設栽培での初期投資」、「移住先と農地の確保」、「チェーンソー、刈払機の資格取得」、「野菜や米の有機栽培や自然農法」、「サカキやシキミの栽培」（その他、多数相談あり）。

また、今回は新たな試みとして、実習ほ場の見学（約20分）および農作業体験（約25分）を実施した。実際に研修で栽培している果樹、野菜を見学した後、カスミソウの収穫体験を行った。参加者からは、「花を収穫する体験はほとんどないので貴重な体験ができた」、「普段の研修の一部を見ることができてよかった」などの声が聞かれた。フェア全体



県農業相談ブース



相談会場



ほ場見学（野菜畑）



農業体験（カスミソウの収穫）

を通し、出展者団体からは、「実際に普段の研修内容を体験し現場を見ることができるので、就農支援センターでの実施はよい」など意見があった。

次回、第3回UIターン就農相談フェアは、和歌山市の和歌山県J Aビルで令和4年2月27日に開催予定である。

2. 特別研修「ジャム加工について」を開催

11月24日、就農支援センター研修館において、県立南部高等学校の小川拓巳教諭と山鷲仁志教諭を講師に招いてジャム加工の研修を実施した。この研修は、農産物加工の一端に触れることを目的に毎年秋に行っており、社会人課程並びに技術修得研修の研修生7名が参加した。

はじめに、ジャム製造の原理とポイントについて講義があり、ジャムがゼリー状に固まるゲル化の原理、果実に含まれる食物繊維ペクチンの種類、シヨ糖濃度やpHとペクチンのゲル強度の関係等を学んだ。

続いて、実際にブルーベリーとイチゴを使ってジャム作りの実習を行った。解凍した果実を鍋で煮詰め、シヨ糖とグラニュー糖を数回に分けて添加して目標とする糖度にし、レモン汁を加えて仕上げ、さらに瓶詰めまで一連の工程を体験した。講師から「糖を加えると水分が飛びにくくなるので、はじめにしっかりと煮詰めること。」「火力が強いと焦がしてしまうので、火加減に注意して。」などの助言を聞きながら、30分余りでジャムを完成させた。

研修生からは、「糖度がなかなか上がらず、難しかった。」「他の果実でもジャムを作りたい。」等の感想が聞かれ、ジャム作りの理解を深めるとともに、農産物を利用した食品加工を考えるよい機会になった。



ジャム製造に関する講義



実習風景

(ブルーベリーとイチゴでジャム作りを体験)

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489